

門 九 4
號 3763
卷 2

琉球新誌卷下



大槻文彦 著

推古ノ朝ヨリ、寧樂朝ノ末ニ至ルマデ、南島陸續朝貢
シ、屢各島ノ君長ニ祿位ヲ賜ヒ、或ハ征討慰撫ス、後太
宰府ノ所轄トナルヨリ、直ニ其府ニ貢獻ス、其後往々
離叛シ、六條高倉ノ朝ニ至テハ、半ハ既ニ叛ク、賴朝ノ
鬼眾島ヲ伐シヨリ、聲息相絶エ、足利氏ノ中世ニ至リ、
再ビ相通ジ、明ト足利氏ノ間ニ周旋シ、嘉吉元年、足利
氏始メテ琉球ヲ島津氏ニ属セシメ、常ニ兵庫ニ来リ、
三年一貢ス、其後又絶エ、豊臣氏ニ至リ、復通ジ、屢參洛

琉球新誌 卷下

因何書成反

早稻田大學圖書印
25.11.5
藤 本

慶長十四年、島津氏其不貢ヲ征セシヨリ、徳川氏更ニ琉球ヲ島津氏ニ賜ヒ、其臣属トス、爾来國王嗣立ノ時ハ、幕府ノ教ヲ以テ、島津氏之ヲ封ジ、乃チ恩謝使ヲ来シ、又將軍襲職ノ時ハ、賀慶使ヲ来ス、共ニ王子ヲ正使トシ、親方ヲ副使トシ、從者数十人、大抵ハ慶島ヨリ九州西海ヲ廻リ、下ノ関ヨリ大坂伏見ヲ過ギ、美濃路ヨリ、東海道ヲ歴テ、東都ニ至ル、官ヨリ驛馬ヲ給ス、未朝、多クハ冬月ナリ、芝ノ薩邸ヲ旅館トス、登城ノ日ハ、往復、外櫻田ノ薩邸ニ放テ、冠服ヲ装束ス、俗ニ装束屋敷ト云、明服ヲ用ヒ、正使ハ王服ニ擬ス、副使贊議官以下、儀衛音樂ヲ用ヒ、島津侯之ヲ率ヒ、重臣兵士護衛ス、將軍已ノ刻ニ、大廣間ニ面ス

長袴ヲ着ス、献物ハ、大抵、太刀、駿馬、壽帶、香龍涎香、香餅、太平布、芭蕉布、青貝、卓羅紗、縮緬、泡盛等ナリ、正副使モ亦進献アリ、後、再ビ日ヲ期シ、登城シ、散樂ノ宴ヲ賜ハル、又初メハ、使臣、必ズ日光山ヘ詣スルヲ例トセシガ、寶永七年ヨリ、日光ヲ止メ、上野ノ東照宮ヲ拜スルヲ例トス、又滞都中ハ、幕府ヨリ米二千俵ヲ給セシト云、帰國ノ時ハ、島津侯、又率テ登城ス、大廣間中段ニ、賜物ヲ列シ、正使、次間ニ坐ス、閣老、台意ヲ傳ヘ、次ニ三間ニテ、正使ニ賜物ヲ傳フ、大抵、國王ニ白銀五百枚、綿五百把、正使ニ銀二百枚、時服十枚、其餘ニ銀三百枚ヲ賜フト云、國王ノ奉書ハ、松平薩摩守内中山王某ト書シ、閣老ニ

呈シ、將軍ニ達ス、之ヲ披露状ト云、今寛文ノ書例ヲ舉
グル、左ノ如シ

謹而令呈上一翰候、抑去歲吾薩州之太守光久奉鈞
命、而予嗣琉球國之爵位、為奉述賀詞使小臣金武王
子附于光久献上不腆之土、宜候伏冀以諸大老之指
南可達台聽儀奉仰候、誠惶不宣、

寛文十一年五月廿五日 中山王尚貞判

板倉内膳正殿 連名畧ス

使佾金武未貢芳簡披閱、面話唯同、抑去年從薩摩國
主光久就申達琉球國傳封之旨、為安堵之賀儀被獻
進土宜件々、使者奉之、登宮如數披露之、奉備台覽之

處、使者被召出、而奉拜御前畢、御氣色殊宜、幸甚、
可被安堵、遠懷猶亦諭、使者畢、不宣、

寛文十年八月九日 從四品侍從兼内膳正源朝臣重矩

回報 中山王 館前 連名ハ畧ス

島津氏嗣立ニハ、亦別ニ使臣ヲ来シ、賀儀ヲ致シ、慶島
ニ琉球館ヲ置キ、常ニ國臣ヲ在勤セシム、又島津氏ヨ
リハ、例年ニ鎮撫ノ官吏ヲ沖繩ニ置ク、其餘ノ遇待、家
臣ニ異ナラズ、書ヲ奉ズレハ、執政ニ介ス、偶一書例ヲ
得タリ、俗文ヲ憚ラス、左ニ擧グ、

一筆致啓達候、去歲雄五郎様御男子御出生、省之進
殿、御名被進、島津兵庫殿嫡子又八郎殿養子被仰出、

島津氏ニ琉球
在藩ノ任ヲ重
ズル貴族ノ
レ必用人以上
人ナリト云

御引越被為濟候之旨承知仕、恐悦奉存候御祝詞為可申達、如斯御坐候、恐惶謹言、

卯月三日

中山王 尚温判

島津登殿

案ズルニ、尚温ノ名、系統ニ見エズ、一書ニ、寛政八年尚温恩謝使トモアリ、尚成ト同人カ、後考ヲ俟ツ、徳川氏ノ世ニ在リテ、慶長ヨリ嘉永ニ至ル、未朝凡ソ二十回ニ至ル、左ノ如シ、

- 慶長十五年 尚寧入朝
- 同十六年 使臣入朝
- 寛永十一年 尚豊、賀慶正使佐敷王子、恩謝正使金武王子
- 正保元年 尚賢、賀慶正使金武王子、恩謝正使國頭王子
- 慶安二年 尚質、恩謝正使具志川王子
- 承應二年 同、賀慶正使國頭王子

- 寛文十一年 尚貞、恩謝正使金武王子、副使越来親方
- 天和二年 同、賀慶正使名護王子、副使恩納親方
- 寶永七年 尚益、賀慶正使美里王子、恩謝正使豊見城王子
- 正徳四年 尚敬、賀慶正使與那城王子、恩謝正使金武王子
- 享保三年 同、賀慶正使越来王子、副使西平親方
- 寛延元年 同、賀慶正使具志川王子、副使與那原親方
- 寶曆二年 尚穆、恩謝正使今帰仁王子
- 明和元年 同、賀慶正使讀谷山王子
- 寛政二年 同、賀慶正使宜野湾王子、副使幸地親方
- 同八年 尚成、恩謝正使大宜見王子、副使安村親方
- 文化三年 尚顯、恩謝正使讀谷山王子、副使小祿親方
- 天保三年 尚首、恩謝正使豊見城王子、副使澤城親方
- 同十三年 同、賀慶正使浦添王子、副使座喜見親方
- 嘉永三年 尚泰、恩謝正使玉川王子、副使野村親方

慶長十五年ハ、尚寧自ラ入朝ス、爾後ハ皆使臣ナリ、唯寛永十一年ハ、將軍上浴ス、因テ使臣二條城ニ謁シテ帰ル、○大政維新ノ後、明治四年七月ヨリ、琉球諸島ヲ

鹿兒島縣ノ管轄トス、五年九月、尚泰ノ賀慶正使、伊江王子、副使、宜野湾親方、贊議官、喜屋武親雲上以下凡ソ四十人、東京ニ着ス、十四日、午後第一時、三使參朝シ、外務卿式部助之ヲ引キ、太政大臣諸省卿等列立シ、皇上ニ拜謁ス、尚泰ノ上表ニ曰、

恭惟皇上登極以來、乾綱始張、庶政一新、黎庶皇恩ニ浴シ、歡欣鼓舞セサルナシ、尚泰南陲ニ在テ、伏シテ盛事ヲ聞キ、懽懽ノ至リニ勝ヘズ、今正使尚健副使向有恒贊議官向維新ヲ遣シ、謹ンテ朝賀ノ礼ヲ修メ、且方物ヲ貢ス、伏メ奏聞ヲ請フ、

明治五年壬申七月十九日

琉球尚泰謹奏

貢物ハ、唐筆墨、硯、画、上布、綸子、縮緬、純子、青貝箱、燒酎等ナリ、別ニ皇后ヘ上表献物アリ、使臣等モ、亦自ラ皇上ヘ献物アリ、共ニ嘉納ノ敕語ヲ賜フ、次ニ外務卿、冊封ノ詔ヲ宣讀ス、詔書ニ曰、首ニ大日本國璽ノ印アリ、尾ニ天皇御璽ノ印アリ、朕、上天ノ景命ニ膺リ、万世一系ノ帝祚ヲ紹ギ、奄ニ四海ヲ有テ、八荒ニ君臨ス、今琉球近ク南服ニ在リ、氣類相同ク、言文殊ナル無ク、世々薩摩ノ附庸タリ、而シテ爾尚泰能ク勤誠ヲ致ス、宜ク顯爵ヲ予フベシ、陞シテ琉球藩王ト為シ、叙シテ華族ニ列ス、咨爾尚泰、其レ藩屏ノ任ヲ重シ、衆庶ノ上ニ立テ、切ニ朕ガ意ヲ體シテ、永ク皇室ニ輔タレ、欽ヨ哉、

明治五年壬申九月十四日

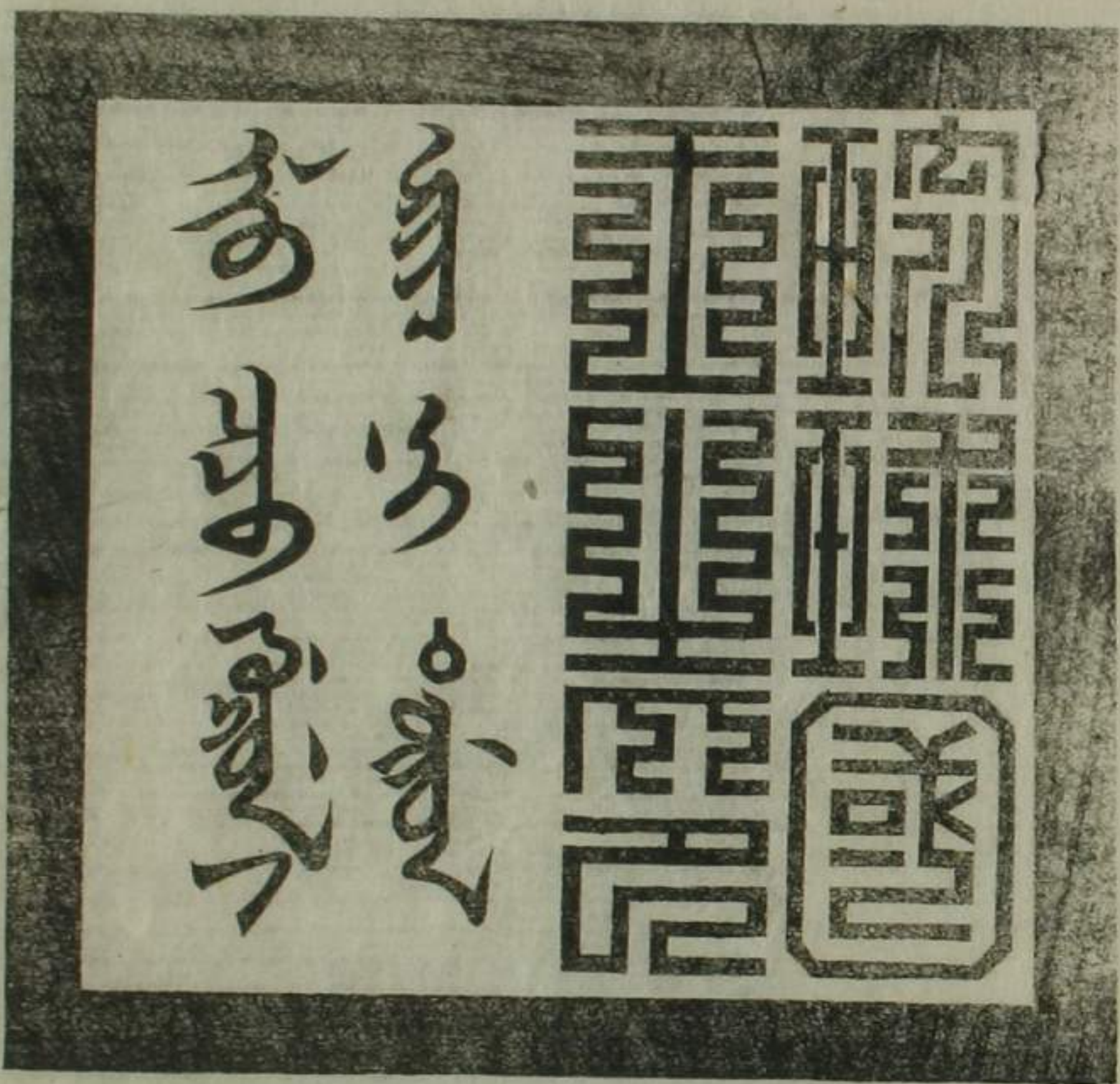
使臣等謹テ詔命ノ辱ヲ拜ス、次ニ皇上、皇后ヨリ、王、王妃ニ錦、天鷲絨、博多織、敷物、花瓶、銃、鞍、鞆等ノ賜物アリ、更ニ三使ニ錦、綾、陶器、新貨幣等ヲ賜フ、其餘從行ノ者皆恩賜アリ、別ニ琉球藩へ新貨幣三万圓ヲ賜フ、使臣等滯京中、外務省ニ入費一万圓ヲ給シ、敕任官ノ格ヲ賜ヒ、鐵道開業ノ行幸、及ビ吹上御苑和歌御會等ニ侍ル、又琉球ノ諸外國ト結ベル條約ハ、盡ク外務省ニ管シ、同省及ビ大藏省ノ官員、琉球在勤ヲ命ゼラル、廿九日、琉球藩王尚泰ニ、一等官ノ格ヲ賜ヒ、又府下飯田町ニ第宅ヲ賜フ、十月始、使臣等歸國ス、

今ハ藩ト爲セ、尚虎兒高縣ニ依テ事ヲ通シ、大抵其縣吏ヲ外務省ノ官員トシテ在留セシメ、東京ニ來ルハ外務省直ニ之ヲ管ス、

唐土ノ封貢ハ、隋煬帝始メテ流、求國ヲ攻ム、後ハ古推ノ朝ニ當ル、唐五代宋ヲ歴テ通ゼズ、元世祖成宗共ニ琉球ヲ攻ム、亦從ハズ、北條時宗貞時頃ニ當ル明太祖琉球ヲ招撫ス、中山王察度乃チ使ヲ遣ハシ、方物ヲ獻ズ、太祖仍テ中山王ニ封ズ、是唐土ニ聘スルノ始ニテ、實ニ洪武五年ナリ、南朝文中元年ニ當ル爾來、山南王、山北王亦繼テ聘ス、太祖共ニ之ヲ封ジ、三王ニ各冠服及ビ駝紐鍍金銀印ヲ給ス、山南山北滅スル後、中山獨リ聘礼絶エズ、始メ一年一貢、後二年一貢、人員一二百人、正副使以下一二十人、京ニ赴クト定ム、後我朝鮮ノ役、及慶長征伐ノ時、僅ニ絶ニ、洪武ノ貢物ハ、馬、刀、金、銀、酒、金銀粉匣、瑪瑙象牙、螺

殼泥金扇、紅銅錫、復布、牛皮檀香、黃熟香、蘇木、烏木、胡椒、硫黃、磨石等、爾後多クハ馬、硫黃ナリ、賜物ハ、大抵、衣冠、綾羅、綢緞、幣、曆、錢等ナリ、明滅スル後、更ニ前印ヲ繳シ、清ニ聘ス、清主乃チ鍍金銀印ヲ給シ封冊ス、後相繼テ亦聘貢絶エズ、始ハ、金銀匣、盃、圍屏、扇、蕉布、麻布、胡椒、蘇木、刀、鎗、甲冑、鞍、繚、綿、螺盤等ヲ貢ス、後ハ、硫黃一万二千六百斤、螺殼三千斤、紅銅三千斤、錫千斤ト定ム、賜物ハ、大抵、綾羅錦繡等ナリ、明ノ時、三王並ビ封スルニ因リ、中山王ノ號ヲ以テ分別ス、後三山ヲ一統スト雖、冊封印璽、共ニ琉球國中山王ト稱ス、清ニ至テハ、印文ハ、只琉球國王之印トシ、冊封書ニ中山王トス、明ニ在テ

琉球國王之印



右ハ篆、左ハ滿字、大サ圖ノ如シ、

ハ、正二品、皇子親王ヲ降ル、一等弁冠、蟒服、白玉犀帶ナリ、清ニ在テハ、品位ヲ定メズ、衣冠旧ニ依リ、列ハ朝鮮ノ下、安南、緬甸ノ上ニ在リ、二年ニ一貢シ、其間年ニ

接貢アリ、臣接貢ニ使謝恩慶賀ニ、法司官、紫金大夫、正副使タリ、常貢ハ、耳目官、正議大夫、正副使タリ、清主殂スレバ、正議大夫、進香使タリ、常貢船ハ二艘、第一ハ、百二十人、第二ハ、七十人、接貢船或ハ折貢ニ作ルハ、一艘、百人許ナリ、貢使ハ、那覇ヲ發シ、福州五虎門ノ川ニ溯リ、琉球館ニ入ル、大抵、初冬ニ、正副使二十人許、發程シ、轎、馬、舟、車四十餘日、北京ニ入り、大和殿ニ朝シ、清帝ニ謁シ、貢獻ス、王妃使臣以下、盡ク賜物アリ、使臣、清主ニ謁スルニ、明服ヲ許サズ、國服ヲ用ユ、滯京中、饗宴豐美ヲ盡ス、凡ソ旅舎路費、盡ク官給ナリ、明年復至ノ頃、接貢船ニ乗テ、歸國ス、凡ソ察度王ヨリ以下、歷世、明清ノ冊封ヲ受

ケザル者、僅ニ數王ノミ、冊封使ハ、明ニ在テハ、大抵給事中、正使、行人、副使タリ、清ニ在テハ、正使ハ、必滿人、副使ハ、漢人、共ニ翰林院ノ文臣タリ、冊封ノ礼ハ、國王新ニ位ヲ嗣ゲバ、中山王世子ト稱シ、冊封ヲ請フ、清主乃チ正副使ヲ命ジ、儀衛服飾ヲ嚴重ニシ、福州ヨリ發シ、那覇ニ上陸シ、世子以下、迎恩亭ニ迎ヘ、滯留中、那覇ノ天使館ニ置ク、先ヅ真和志ノ先王廟ニ、前王ヲ諭祭シ、唯諭祭ノミ、故ニ歷代謚ナシ、次ニ首里ノ王城ニ、冊封ノ礼ヲ行フ、世子以下、皆明服ヲ用ユ、音樂儀典嚴肅ナリ、其餘滯留中、舞樂宴饗、甚タ厚シ、冊封使ハ、大抵復至後ノ南風ニ發シ、南路ヲ取り、冬至後ノ東北風ニ還リ、北路ヲ取ル、然

レ氏、海上風潮ノ險多ク、加之、唐船脆弱ナレバ、毎ニ風浪ノ難ニ逢フ、琉球冊封使ノ命ニ當ル者ハ、皆死ヲ以テ期待スト云、

國體

琉球國、上古我内附ノ國タリ、中古聲息相絶工、足利氏ノ始ヨリ、明ニ聘シ、復我ニ属シ、遂ニ兩属ノ國トナル、慶長以後、全ク島津氏ニ陪属シ、尚明ニ聘シテ止マズ、徳川氏島津氏措テ制セズ、刺ヘ其國ニ托シ、貿易ヲ明ニ求ムルニ至ル、其國威名義ニ於テ、大ニ立タザル所アリ、且其遇待、既ニ陪属タレ氏、又外國ノ體アリ、其國モ亦我ニ朝スレバ、我正朔ヲ奉ジ、彼ニ聘スレバ、彼年

號ヲ用ユ、朝鮮、我ニ聘スル如キハ、唯支干ヲ書シ、國中ハ彼年号ヲ用ユ、且我ニ向テ、

彼事ヲ秘セズ、彼ニ向ヘバ、甚シク我事ヲ秘シ、絶エテ

日本アルヲ知ラズトス、内地ノ船、琉球ニ在テ、唐船ニ逢ヘバ、必ス避匿スルヲ定メ

トスト、且國中及ビ諸外國ノ交際ニ、皆彼正朔ヲ用テ、

清國藩屏獨立國ト稱セリ、其情實ヲ察スレバ、一ハ我

陪臣ノ名ニ恥ヂ、彼藩屏獨立國ノ名ニ艶矜シ、一ハ國

貧小ナレバ、依テ交易ノ利ヲ得テ、國用ニ足スガ為メ

ノミ、既ニ之ヲ失ハニテ恐ルレバ、之ヲ慎マザルベカ

ラズ、亦憐ムベシ、當初島津氏ノ制セザルモ、亦慈ト利

トニ出ヅル者カ、然レ氏、彼ハ唯一年一貢、我ハ往來未織

ルガ如シ、其生計ヲ依頼スルハ、偏ニ我ニ在ルノミ、然

此時外國交際ノ始ニシテ其情尚ノ料ラズ故ニ咸豊ノ荒ヲ用テ之ヲ蓋シ島津氏等ノ意ヲテ之ヲ所ニシテ曰來薩摩ヨリ負債莫大ニシテ年々空シ其返辨ニ奔勞セシニ一新以來盡ク之ヲ消却ス國同リ樸直ナハ大天朝ノ恩感泣ニ去歲冊封ノ誠ノ如キ事速ニ辨セリト云

琉球新誌 卷下
ルニ、安政元年、ペルリ獨立國體ヲ以テ、條約ヲ結バント言ヒシ中、國人、清ニ對シ、臣義ヲ失フトテ、一旦之ヲ拒ミ、後竟ニ條約調印セル中、咸豊ノ年、號ヲ用キタリ、因テ西洋各國、亦大ニ疑ヲ起セリ、抑萬國ノ通義ニ爲ゾ一國兩國ニ屬スルノ理アラシヤ、今ヤ皇上政ヲ親ラシ、名義ヲ正シ、國威ヲ明ニシ、藩王ニ叙シ、幣帛ヲ賜ヒ、優待撫恤、以テ上世南島ノ故地ヲシテ、再ビ全ク皇化版圖ニ復セシム、其國ノ如キモ、亦漸ク皇恩ニ浴シ、同氣ノ國ニ附服シ、遂ニ外國ノ封ヲ甘ニゼガルニ至ラン、今ペルリ琉球記行中ヨリ、衆論ヲ畧文摘譯シ、陳腐ヲ憚ラズ、左ニ擧グ、

爰ニ琉球ノ所屬ニ就テ、疑案アリ、或云、日本薩摩公ニ屬ス、或云、支那ニ屬スト、然レモ、衆論歸スル所ハ、其國自ラ獨立ノ體アリテ、全ク日本ニ屬シ、又支那ニ、名目ヲ以テ、臣屬スル者トス、其毎年支那ニ送レル貢租ハ、定則ノ如ク見ユレモ、琉球ノ官吏ハ、支那人ナラズ、又漢文漢語ヲ解スル者アリト雖モ、通用ノ言語ハ自ラ別ナリ、然ルニ、那霸ノ一官吏嘗テハルリニ詔ルニ曰、明朝以來、我國支那外藩ノ一國ニ列スルヲ得シ、我國ノ大ニ榮誇スル所ナリ、支那帝、多年我王ニ官爵ヲ賜フ、我國モ亦方物ヲ拮据シテ之ニ奉ゼリ、我國人支那ニ往テ、絹、綢、精藥、其他國

萬國公法三國
 其保護在
 所屬スル
 論此ノ如ク余
 毛亦既ニ之ヲ序
 論ニ稟ル
 時ニ離州ヲ大
 二武備安卒送
 リシト云清國ニ
 管テ此事ナク國
 人モ亦之ヲ頼ミ
 是我屬國ノ證
 確乎ナルモテリ

用ノ諸物ト交易シ、尚足ラザルキハ、土噶喇島ニ至
 リ、一ノ近親國ト交易セリ云々ト、此近親國トハ、日
 本ヲ諷言セルナリ、然レモ、其交易ハ、日本船ヲ用キ
 多ク日本ト行ヒ、日本ヨリモ、毎年凡四百五十噸積
 位ノ船三四十艘モ、送り来レリ、然ルニ琉球ヨリハ、
 僅ニ毎年一二艘ノ船ヲ支那ニ送ルノミニテ、支那
 船ハ一艘モ那霸ニ入レシメズ、且危難アレバ、只日
 本ニ依頼シ、支那ニ恃マホルガ如シ、且琉球ニテ、日
 本人ヲ見ルコト許多ニシテ、皆土人ト隔意ナク婚姻
 交通シ、實ニ其本國ニ居ルガ如ク、且守兵モ未テ那
 霸ニ屯營セリ、然ルニ、支那人来レバ、諸外國人ト一

様ニ看做セリ、况其人種言語風俗徳悪、先能ク日本
 属縁ノ國タルコトヲ證シ、就中、其骨格言語、酷ニ相類
 セリ、上世日本ヨリ殖民セルコト疑ナシ、然レモ、其開
 化文学ノ一半ハ、大ニ支那ノ浴化ニ因リ、且毎年貢
 物ヲ送り、支那帝モ亦新王嗣立ノ時ハ、特任使節ヲ
 送り、王號ヲ與ヘ、自ラ獨立國ノ體ヲ成セリ、然レモ、
 到底實着上ニモ、政法上ニモ、琉球ハ、百事日本ノ属
 國ナルコト疑ナク、更ニ其實ヲ言ヘバ、日本薩摩公ニ
 臣属スル者ナリ、云々、

人種

琉球記行曰、日本琉球、兩人種ハ、甚ダ相類セリ、兩種共

ニ身丈同ク骨格好クシテ強壯ニ色暗赭ニテ間魁偉
 秀美ノ者アリ頭骨楕圓深目長鼻歐羅巴人種ニ似タ
 リ前頂ノ骨圓ク面亦楕圓ニテ額高ク面容柔和愛ス
 ベシ東方人種ノ方面ナルハ頬骨高キニ因レ氏兩種
 共ニ甚タ高カラズ眼ハ大ニシテ氣采アリ濃眉弓形
 ヲ成シ鼻形能ク適シ支那無^{ハレ}来^ル人ノ如ク低カラズ孔
 モ大ナラズ口稍大ニ齒廣シ婦人モ骨格恰モ好ク細
 腰纖頭胸大ニ開ケ身稍短小ニ面モ稍方形ニテ鼻モ
 低シ間美艷ナルアリ因テ考フレバ琉球元来日本ト
 同人種ニテ太古ノ世ニ日本ヨリ殖民シ後漂流等ノ
 事ニ因リ支那臺灣無^レ来^ル人等モ少シク加ハリ現今人

種ト混成セシナルベシ凡日本琉球人種ノ支那無^レ来^ル
 人種ニ異ナルハ鬚髯ノ多ク剛ク黒キニ在リ支那無^レ
 来^ルニ大抵此事ナシ云々○性質ハ欣々トシテ情アリ
 順良ニシテ少シク治風アレ氏沈重度量アリテ頗ル
 智敏ナリ然レ氏海島ニ僻在シ外國ト交ル少キニ因
 リ質朴ヲ存シ名利勞心ノ欲少ク優寛天然ニ安ンジ
 天壽ヲ致ス者多シト云婦人モ行儀柔和ニ男女共ニ
 勞苦飢寒ニ堪エ日夜勞作シテ息セズ然レ氏如何セ
 シ天質美ナルモ政治ノ弊カ欺罔惡詐モ亦間アリ古
 ハ血氣ニシテ不平ニハ鬪殺割腹ノ風アリシト云今
 ハ人氣殊ニ平穩ニ絶エテ鬪無シ五六十年前ニ英

人ハシルホルナル者、嘗テ東洋ニ来リ、琉球ノ國風
 ナ探リ、國人古来ヨリ絶エテ戦争ナル物ヲ知ラズト
 傳聞シ、後セイントヘレナ島ヲ歴テ、那勃列翁ニ會シ、
 談、偶、其事ニ及ビシカバ、那勃列翁ハ、其特奇ナル天稟
 ナ聞クニ及ニテ、驚然肩ヲ脅カシ、戦争絶エテ無シト
 歎、是レ決シテ能ハザルヲナリト語りシトゾ、彼ノ戰
 ナ好メル大武將ノ心ニ在テハ、左モアルベシ、然レ氏、
 古ヘ國內分裂シ、古城ノ遺蹟モ、今尚存スレバ、争乱ノ
 禍モ亦時トシテ免レザルヲアリ、而シテ此、渺乎タル
 一島中ニ、分裂攻戰セシヲ見レバ、其人性ノ優悠小量
 ナル、亦量リ知ルベシ、○言語ハ、皆内地ト小異アルノ

ミ、然レ氏、テニヲハト土音ハ、異ナルアリテ、會話明ニ
 通ジ難シ、琉球ヲ「ド」キ「ト」云ヒ、首里泊ヲ「シ」トマ
 イト云フ、皆訛音ナリ、總テ良行ノ音ヲ誤レルハ、薩人
 モ亦然リ、古ヘ隼人ノ同人種ナルヲ知ルベシ、然レ氏、
 其稱呼ニ内地ノ古言存スル者、却テ多ク、内地ヲ「ヤマ
 ト」ト稱シ、甚タ尊崇ス内地ノ人ヲ日本人ト稱シ、琉球
 人ハ、自ラ沖繩人ト稱ス、其方言一二ヲ左ニ掲グ

水	茶	手	鐵	父	火	木	鏡	書物	石	豚	飯	男	女
鼻	口	鉢	鉢	母	腹	米	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	兄	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	弟	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	庖丁	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	衣服	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	名	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	百姓	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	春	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	色	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀
茶	口	鉢	鉢	神	腹	甘薯	書物	椅子	名	酒	烟草	駕	銀

琉球新誌 卷下 十四 因兩書載反

佛 ホトケナリ 薩吏 シカケレ 尊稱ナリ 毒蛇 マシモノ 毒義 妻媚子 ウツシ 美娘 キヨラシメシ 清ラ女 童ナリ
 尋常會話ノ末語ニ、デアベルト言フ、是レ、古言ニ、デア
 リハベルトイヘルノ、畧言ナリト云ス、

政制

政體ハ、立君特裁ニテ、血系ヲ以テ相嗣ギ、政權ハ、執政
 ノ手ニ在リ、貴族士族等皆世祿ノ制ニテ官吏ハ皆其
 門家ヨリ登用ス、然レモ、土着ナラズ皆首里那霸等ニ
 聚居ス、各村及ヒ各島ノ里長ハ、庶民ヨリ擧ゲ、官吏ヲ
 遣ハシ制治シ、首里ノ政府、其總制ヲ統ブ、位ハ一品ヨ
 リ九品ニ至ル、各正從アリテ、十八等トス、官服ハ明制
 ニテ、帕、簪、袍、帶ノ色製ヲ以テ、等級ヲ別ツ、官ニ國官、唐

官ノ二様アレモ、職務ハ相合ス、蓋シ、國官ハ古来ノ遺
 官ハ、唐山ニ倣ヒシ者ナルベシ、

國官	唐官	加銜ハ格ナリ 座ハ見習ナリ	王子	正一品	國相	左相一員 右相一員	按司	從一品	法司官	除授刑法一員 錢穀出入一員 禮儀圖籍一員	親方	正二品	紫金大夫	加法司銜	從二品	紫金大夫	親	正三品	耳目官	司實司賞、 司刑、司禮、 各員	上雲
帕	簪	紫綾五 色花 青綾五 色花	金	紅	錦花	王子、按司、 才徳アル者 之ニ任ス	紫綾	同	同	同	深青	黃地 龍蟠	同	同	同	同	同	同	同	同	同
袍	帶	同	同	同	同	又三司官 ト称ス	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

琉球新誌 卷下 十四 因兩書載反

親				雲				上											
從三品	正議大夫加耳目官銜	同	同	正四品	吟味官	同	同	從四品	中議大夫	同	同	從五品	正殿過關理官	同	同	從七品	筑登之親雲上	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	赤地龍蟠	同	同	同	同	同	同	同	雜色花	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	申口座ト称ス	賛議ト称ス	御物城トモ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

里之子				筑登之				國王											
正八品	正殿里之子	同	同	正九品	正殿筑登之	同	同	正九品	筑登之座	同	同	正八品	皮弁朱纓龍頭金簪蟒袍錦帶ナリ、中山王ト称シ、源尚二姓ヲ用ユ、昔シ、山北王戰敗レ、寶劍重金丸ヲ屋島ノ人得テ献ス、今王府第一ノ王妃ハ鳳頭金簪花寶劍タリ、今歸仁ニ獲劍溪アリ、	同	同	同	同	同	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	王妃ハ鳳頭金簪花	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	王妃ハ鳳頭金簪花	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	王妃ハ鳳頭金簪花	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	王妃ハ鳳頭金簪花	同	同	同	同	同	同

琉球新誌 卷下

十五

因兩樓或版

國王ハ、皮弁朱纓龍頭金簪蟒袍錦帶ナリ、中山王ト称シ、源尚二姓ヲ用ユ、昔シ、山北王戰敗レ、寶劍重金丸ヲ屋島ノ人得テ献ス、今王府第一ノ王妃ハ鳳頭金簪花寶劍タリ、今歸仁ニ獲劍溪アリ、

緞衣ナリ、中婦君ト稱ス、太子ハ中城ト稱ス、○王子ハ、王叔子弟、或ハ異姓モ之ニ任ズ、按司ハ、王子ノ子孫、之ニ任ズ、親方ハ、親戚ノ義ニテ、宗籍ニ准ズ、親雲上ハ、殿上ニ近キ義ナリ、堂上方トテ、古ノ遺言ナリ、以上皆地ヲ

賜ヒ、某地何官ト稱ス、里之子ハ、世祿ノ士家ニ、里之子
 家ハ稱スル者アリテ、其子孫之ニ任ジ、終ニ親雲上ヨ
 リ親方ニ昇ル、里之子ハ、野主ノ訛ナリ、士筑登之ハ、筑
 登之家ト稱スル者世祿ナノ子弟之ニ任ジ、親雲上ニ
 昇リ止ム、別ニ仁也家ト稱スル者アリ、畧、平民ニ同ジ、
 亦筑登之ヨリ親雲上ニ昇ル、筑登之仁也モ、又久米村
 閩人三十六姓ノ後裔、今僅ニ七百餘家アリ、皆唐土ニ
 留学シ、通事ヨリ紫金大夫ニ昇リ、文筆應答ヲ司ル、○
 法司官ハ、分職アリト雖、氏、每事、必ス三人議定シ、國相
 ニ稟ス、國王ハ成ヲ受クルノミ、首里ノ尚向翁毛馬夏
 等ノ七姓之ニ任ズ、向翁毛馬ヲ、首里ノ四大姓ト云、耳

目官ノ司實ヲ或ハ御鎖側ト稱シ、司寶ヲ或ハ御双紙
 庫裡、司刑ヲ或ハ平等側、司礼ヲ或ハ泊地頭ト稱ス、○
 凡ソ閑祿アル者ハ、皆首里那霸久米泊ニ聚居シ、此四
 所ノ人ノミ官吏ニ任ジ、餘ハ總テ民戸ニテ、畧假字ヲ
 知ル者ヲ村吏トス、皆昇進セズ、三省、各島ハ、村吏ノ長
 地頭ト稱スル者、銀簪ヲ許スノミ、餘ハ皆銅簪、藍袍、定
 マラズ、三省ノ各間切ハ、各吏二員ヲ遣ハシ、各島ハ、大
 小ニ隨ヒ、監撫ノ吏、奉行官三員、二員、或ハ一員ヲ遣ハ
 シ、之ヲ治メシメ、毎年ニ交替ス、○祿秩ニ、三様アリ、一
 ハ、俸米ニテ、時ヲ定メ給ス、世祿ナリ、二ハ、采地ニテ、子
 孫次第ニ減ジ、曾孫ニ至レバ減セズ、永ク世祿トス、三

ハ切米ト云功アレハ給ス其身一世トスルアリ年限
 数年或ハ数世トスルアリ又永世トスルアリ○曆ハ
 通事官預メ萬年書ニ據リ推算曆ヲ製用シ清ニ到リ
 何年ニ清曆一百冊ヲ齎還リ倣テ國中ニ頒與ス○里
 法ハ三十六町里法ヲ用ユ○元旦上元及冬至ニ祝賀
 アリ國王ノ誕日ニ大賀儀アリ叙任大赦ヲ行フ其他
 宗廟社稷等ノ祭祀儀典ノ制畧備ル○武備甚々薄シ
 大抵文官武職ヲ兼ヌ兵制ハ兵ヲ農ニ寓シ五家ヲ伍
 トシ五伍相統ブ親雲上筑登之ト稱スル者皆武ニ習
 ヒ事アレバ出テ戰フ兵器ハ甲冑矛及弓矢鎗砲等ナ
 リ多ク舟艦水戰ノ用ニ備フ國內ニ王城ノ外城砦ナ

シ那覇ニ演武場及ビ砲臺ヲ備フ○刑法ハ死刑三ツ
 剝斬斬首磔ナリ輕刑五ツ流曝日夾枷笞ナリ罪ヲ犯
 ス者アレハ大夫ヨリ法司ニ達シ法司曲直ヲ決シ遲
 留セズ裁判ノ法極メテ嚴ニ顯官モ憚ラズ父子兄弟
 モ情ヲ曲ゲズト云

國計

中部南部諸島ノ歲入ハ九万四千二百三十石トス記旧
二、中部諸島ヲ七万一千七百八十七石、南部諸島
諸島ヲ一万九千九百六十八斗餘トス北部諸島
 ハ五万二千八百〇四石トス旧記ニ三万二千八百
 田制ニ三様アリ一ハ王府ノ公田ナリ二ハ各官ノ采
 地ナリ三ハ民間ノ私田ニテ賣買ヲ許ス然レモ價甚

琉球ノ薩摩
納メ毎年ノ貢
米ハ僅ニ千石ニ
足ラズテ却テ
薩摩ヨリ三萬石
宛毎年送リシ
ト云
從來其國其小
モハ已ク得ル
薩摩借ル薩摩
高利ヲ以テ之ヲ
借リ積年ノ元
利莫大ト為リ年
々ノ產物ノ如キ大
抵其返價ニ没
入セテ維新以
來元利共乏ラ
消却セシ因リ
大ニ恩感ス
ト云

琉球新誌 卷下
夕貴シ、各属島ハ、公田私田ノミ、監吏、租税ヲ徴シ、王府
ニ送ル、年租ハ、大抵十分ノ六分ハ正租、二分ハ雜税、二
分僅ニ農民ニ入ルト云、又人毎ニ役二日アリ、事アレ
ハ皆役ス、○慶長成功ノ時、幕府、琉球ノ半、十萬石ヲ、島
津氏ニ賜フト云、北部諸島ノ琉球記行ニ、薩摩公ハ、毎
年琉球ヨリ、大凡九十萬弗ドルヲ受クトアリ、是訛聞ナル
ベシ、試ニ十萬石ニ九十萬弗ドルヲ當ツレバ、一石九弗ニ
當ル、其筭過當ト云フベシ、然レモ、其餘、雜税交易ノ利
モアリトスレバ、或ハ然ランカ、世俗ニ薩摩ノ國用ハ、
半ハ琉球ニアリシト
云、○明治三年ノ改計ニ、中部南部諸島ノ户数、四万三
千四百九十九戸、同人口、二十三万四千三百六十九人、

内地ノ輸入品ハ、
木綿、茶、烟草、鐵
器ノ類ヲ最多シ
ト云

琉球新誌 卷下
男、十三万六千八百八十一人、北部諸島ノ戸口詳ナラズ
女、九万八千八百八十八人、
○古来ヨリ、國ニ金銀ナク、唯錢ヲ用ユ、明朝、錢ヲ給セ
テ、給今通用スルハ、皆寛永通寶ナリ、世ニ文、錢ト稱別
ニ内地ノ銀キン玉タマヲ通用ス、又清ノ冊封使、滯留中ノミ、別
ニ小錢ヲ鑄ル、鉛ナラズ、鐵ナラズ、輪郭文字ナク、草繩
ヲ貫キ、固封シテ用ユト云、明治五年、天朝、金銀紙幣三
万圓ヲ賜フ、使臣、又別ニ自ラ乞ヒ、換ヘ得テ齎還レリ
ト云、○國貧小ニシテ、交易ノ利ヲ以テ、大ニ國用ヲ助
ク、年々船舶ヲ以テ、薩摩ト互ニ相往来交易シ、貨幣ヲ
用キズ、品物相交フ、旧来琉球ノ產物ハ、唯薩摩ヲ限り、
他ノ内地ノ人ト、交易スルコトヲ禁ゼシカ、今年三月、令

畢竟内地ト清國トノ品物ヲ彼此販賣交易シテ生産トセルガ

琉球ノ國計ハ泡盛サマ上布サマカネリ芭蕉布ノ四産物トス塩豚之ニ次ガ砂糖ハ特天島ノ産トス

琉球新誌

アリテ其禁ヲ許セリ、清國へモ、一艘二艘、隔年ニ朝貢ニ托シ貿易ス、此利モ亦大ニシテ、明清以來、朝貢絶工ナルハ、其實此故ト云、清國ノ交易ハ、只船數ヲ限り、銀額ヲ限ラズ、全貢ハ、十餘萬銀、接貢ハ、五六萬銀ナリ、小船多載スル能ハズ、大船ナレバ、福州港淺ク、船入ル能ハズ、買フ所ノ唐物ハ、絲、綢、綾、緞、紙、藥、金、銀等ナリ、昔ハ暹羅、滿刺、加伏、哇國等ト交易セリ、國ノ輸出品ハ、砂糖、泡盛、芭蕉布、綿布、上布、紬、紙、硫黃、草蓆、塩豚、漆、罌等ナリ、
農工
沖繩全島ヲ百六十方里トシ、其八分ノ一、二十方里、即チ二十五萬餘反ヲ田畝トス、此中、十四萬反ヲ甘薯ト

シ、八千反ヲ蔗トス、米ハ凡ソ三萬六千石、麥ハ九千石トス、各現石ノ其他雜穀、芋、菜等、數千反アリ、大抵、穀ハ一反ニ一石程生ズ、土人最能ク耕種ニ努ム、山上ハ半腹断崖ニ至ルマデ皆開墾ス、器械耒鋤ノ類、皆内地ヨリ渡ル、自國ノ製、殊ニ鈍ナリ、其他、耕耘作田、水樋或ハ牛馬ヲ使用スル法、大抵内地ト同ジ、小河、灣、江ハ塩氣アリ、用水ニナラズ、故ニ高田ハ雨水ヲ湛ヘ、クホ下田ハ次第ニ低クシ、泉水ヲ溉グ、中山、山北水田多シ、地質、稻ニ宜シ、山南陸田多シ、地、豆、麥ニ宜シ、或ハ收稻ノ後、又麥、芋、薯ヲ植エ、一年再收スルモアリ、大抵、秋耕シ、冬種エ、春耕リ、夏收ム、終年温暖ナレハ、兩熟スベキ理ナレ

琉球新誌

卷下

十九

因兩樓藏板

氏例年六月後ハ、大颶屢起リ、海雨横飛シ、稻菓皆其害
 ヲ受クルガ故ナリ、○砂糖ハ、小蔗草ヲ碾キ、汁ヲ熬リ
 製ス、黑白永砂糖アリ、首里ニ多ク、北部諸島最多シ國
 内ハ貴人ノ食トシ、又交易品トス、烟草ハ、葉細ク長シ、
 各地ニ製セ氏、上下皆嗜ムニ因テ足ラズ、多ク大隅ヨ
 リ輸入ス塩ハ、潮水ヲ曝シ製ス、色白シ、宜野湾令歸仁
 那霸ニ製塩場アリ、又塩豚ノ製出、頗ル多シ、茶ハ少シ、
 土質茶ニ宜シカラズト云、殊ニ内地ノ茶ヲ珍惜シ、又
 多ク清ヨリ来ル、漆器ハ、匣皿皿等、朱漆ヲ上品トス、女
 製シ男画ク、泡盛ハ先ヅ、純白米ヲ糊ト為シ、適宜ノ水
 ヲ加ヘ、手ニテ、頻ニ舂ク揉ミ和シ、之ヲ蒸溜シテ、圓長

泡盛ヲ製ス者
 唯首里ニ四戸
 一ノ名小國
 二名産ノ法也
 一ノ名産ノ法也
 二名産ノ法也
 一ノ名産ノ法也
 二名産ノ法也
 一ノ名産ノ法也
 二名産ノ法也
 一ノ名産ノ法也
 二名産ノ法也

陶壺ニ密封シ、床下ニ置キ、又屢頻ニ其壺ヲ轉シ、儲
 ル、數年ノ後、用ユ、味極メテ芳烈ナリ、相傳テ、昔シ、外
 國人未テ曰、國、南海瘴霧中ニ居ル、人必ス夭死セント、
 因テ毒ヲ避クルノ方ヲ授ク、即チ泡盛ナリト、薩人酒
 ヲ嗜マザル者、琉球ニ成スレバ、多ク泡盛ヲ飲ミ、醉ハ
 ズ、大島ニ歸ル頃ハ、數杯ニ堪エズ、竟ニ國ニ歸レハ、故
 如ク一杯ニ堪エスト云、又布帛ノ類、盛夏ニ儻ヲ生
 ズ、泡盛ヲ以テ晒セバ、色即チ鮮明ナリト云、泡盛ノ輸
 出頗多シ、又燒酎清濁酒、醋醬油、味噌ノ製、内地ニ同ジ、
 紅酒ハ南部諸島ヨリ出ヅ、絹ハ甚ダ少シ、但姑米島多
 ク養蠶ス、絲粗黒ナリ、紬布ヲ織出ス、
 業テ織機ハ、婦人
 業ナリ、機梭ハ

製内地又唐山ノ絹絲ヲ以テ織ル、皆綿或ハ無地ナリ
 世ニ琉球紬ト稱シ緊且美ナリ綿布ハ世ニ薩摩ガス
 リト唱ヘ薩人ハ琉球綿ト稱ス其製ハ染メテ唯屢能
 ク叩ク故ニ屢洗フテ色變ゼズ木綿ハ沖繩姑米綿姑米
 フ云惠平屋及ビ南部諸島ニ産ブレ氏極ノテ少シ皆内
 地ヨリ輸入スル者トス麻布ハ細上布ト稱シ世ニ薩
 摩上布ト唱フ生麻ヲ沼メテ織ル最貴シ綿布麻布共
 ニ山藍ヲ以テ染ム南部諸島ノ産ヲ先島織ト稱シ殊
 ニ上品ナリ芭蕉布ハ芭蕉成長凡ソ三年ノ者ヲ伐リ
 之ヲ煮テ五六日間流水中ニ浸シ後其皮内ノ絲ヲ縷
 シテ織ル最モ織巧テ極ハ首里ノ産ヲ上品トシ多ク

琉球表 諸島最多シ

輸出ス草蓆ハ薊草ヲ以テ編ム姑米及ビ南部諸島ニ
 出ヅ精細ナル者アリ人家皆蓆トス世ニ琉球ト稱
 スル疊表是ナリ交易品トス紙ハ穀樹皮ニテ製ス数
 種アリ棉紙清紙等ノ稱アリ護壽紙最佳ナリ油ハ魚
 油アリ魚脂ヨリ製ス燈油ハ油樹ノ實ヨリ製ス桐油
 以シ蠟ハ姑米島ニ出ヅ燭ハ色微黒ナリ鎔ケテ衣紙
 ニ滴ル巾ハ凝ルヲ待テ剔リ去ルニ油痕ナシト云

文教

上世ニ文字ナシ俗傳フ昔シ天人中城ノ地ニ降り文
 字ヲ授ク體古篆ノ如ク今尚百餘字ヲ餘シ吉凶ヲ占
 フニ驗アリト云俗ニ天人ト云フハ皆外國人ナリ業
 ズルニ朝鮮ノ諺文及ビ此字彼ノ神

代ノ人、未リ傳フル者カ、中古舜天王我國字ヲ傳ヘシヨ
 リ、國中普ク平假字片假字ヲ用キテ、國音ヲ綴レリ、始メテ明ニ通ゼシ片、本簡ヲ筆繕又、文章ニ、漢字假字ヲ雜
 シ、假字ヲ刻シ送リシト云、用シ、及ビ贈答書翰ノ文、或ハ鈎挑旁記ヲ以テ、漢文ヲ
 逆讀スル如キ、皆内地ト同シ、假字付カナヅキ板本漢書類、内地
 ヨリ渡ル、唯久米村、閩人ノ裔、古法帖ヲ習ヒ、漢書ヲ音
 讀ス、明ノ洪武中、始メテ留學生ヲ明ニ遣ハセシヨリ、
 清ヲ歷テ、今ニ至ルマデ、例年絶エズ、首里那霸久米ニ
 学校アリ、王親以下、各官ノ子弟、皆入テ孔孟ノ学ヲ講
 シ、漢字ヲ解シ、古經書ヲ讀ム、久米ノ学校、学制畧備ハ
 ル、聖廟アリ、孔子四聖ヲ祀ル、庶人ノ子弟ハ、寺ヲ塾ト

シ、僧ヲ師トシ、實語教式、目庭訓等ヲ学ブ、書ハ大搗、王
 置寺ノ流、行ハレ、又一般ニ皇学ヲ務メ、最和歌ニ長ジ、
 書モ亦優美ナリ、画ハ皇漢相半シ、自ラ一風アリ、医ハ
 薩摩或ハ清國ニ学ブ、兩國ノ学ヲ歷ガレバ、治術ヲ施
 スヲ禁ズ、又ト筮師アリ、○國中ニ伊勢太神、八幡、天神
 熊野神等ノ社多シ、辨岳ニ天孫氏ノ女ヲ祀ル、又君真
 物ト云ヘル神ヲ崇奉ス、其他、天地山川ノ神ヲ祀ルニ、
 皆石ヲ以テ神體トセリ、天妃宮トハ、宋ノ乾隆年間ニ
 生レシ、林氏ノ女ニシテ、海上ニ靈アリトシ、歷代ノ冊
 封使、徒シテ此ニ祀リ、風浪ヲ鎮スル者ニテ、船玉神ノ
 類ナリ、佛法ハ、臨濟真言ノ二宗ノミ、寺院頗ル多ク、僧

徒ノ崇奉モ亦厚シ、僧徒ノ唐土ニ入ルハ、清國ヨリ禁
 止、皆薩摩ニ留学ス、故ニ善ク皇語ヲ解ス、享保以前ハ、
 琉球僧内地諸州ヲ行脚セシガ、後國禁ト為リ、薩摩封
 内ノミヲ經過スト云、嘉永年間、英國耶蘇宗徒等、一僧
 へ、テルヘームナル者ヲ遣ハシ、那覇ニ在留セシメ、其
 法ヲ説カシメシニ政府之ヲ欲セズ、國人モ亦強ヒテ
 拒マズト雖、竟ニ入ル者ナク、数年ニシテ去レリト
 云、

風俗

國人、名利勞心ノ累ナク、民間、有餘不足ニ安シ、群集
 遊戯少ク、貧ナレ、險樸ニシテ、盜セズ、又能ク法ヲ畏

レ、日夜ニ勞作怠ラズ、殊ニ耕渙ヲ務ム、相交ル甚ダ、丁
 寧ニ、吉凶ニ情厚シ、大抵百姓ハ皆貧ニテ、男女共ニ耕
 種ス、然レ、一般ニ男逸シ、女勞スルノ弊アリ、又一異
 俗アリ、人死スレバ、三年ノ後、其屍ヲ墓穴ヨリ出シ、溪
 水ニ洗ヒ、再、餘骨ヲ納ム、之ヲ骨洗ト云、冠婚喪祭ノ礼、
 内地ト大同小異ナリ、婦人ハ大抵貞淑妬淫セズ、酒ヲ
 飲マズ、然レ、文字ヲ識ル者少シ、五六歳女工ヲ習ハ
 シ、十四五ニ至レバ、手指背ニ黥スルノ弊アリ、嫁スレ
 バ、猥リニ男子ト面セス、再嫁スル稀ナリ、大抵一村内
 相婚娶ス、男女相愛スレバ、即チ配偶トナル、官家ノ婦
 人、出レバ笠或蒙衣ヲ戴キ、馬ニ騎ルニ、兩足一鞞ヲ共

ニシ、西洋婦人ノ騎馬ノ風アリ、港頭ニ娼妓アリ、頗ル
 艶冶ニシテ、善ク三絃ヲ弄ス、又女子市ヲナシ、男子ハ
 市セズ、年中ノ行事モ、内地ト畧同ジ、居家器什ノ制、内
 地ト異ナルヲナシ、清潔ヲ好ム、茅屋多シ、或ハ赤色ノ
 瓦ヲ用ユ、二階ナシ、床高ク湿氣ヲ避ケ、屋低ク颶風ヲ
 防グ椅子ヲ用ヒズ、疊ヲ敷キ、之ニ坐シ、戶外ニ履ヲ脱
 ス、園庭ニ、竹木小池ヲ設ク、大抵、礪石或ハ竹木ヲ籬ト
 シ、家ノ四面ヲ圍ミ、馬廐、豚柵、鶏埒、皆此内ニアリ、官道
 ハ砌石ヲ敷キ、街衢ハ清潔ナリ、器械ノ類、船舶ニ至ル
 皆内地ニ同シ、但シ太平山船ハ長サ八丈餘、寛サ二丈
 五六尺、櫓ヲ用ユ、漁夫ハ丸木船ヲ用ユ、輕ク迅シ、貴人

ハ米ヲ食ヒ、貧人ハ甘薯ヲ食フ、共ニ魚肉ヲ食ヒ、肉食
 稀ナリ、最烟草ヲ嗜ム、茶ハ内地ノ産ヲ賞美ス、煎茶ノ
 臺子式、行ハレ、羞膳ニ小笠原流、行ハル、飲食物理、膳梳
 杯盤、烟盆、唾壺等、大抵同ジ、貴人ハ絹綿ヲ衣ル、貧人ハ
 麻布蕉布ヲ着ル、服ハ寛闊ニ、廣袂ニテ長シ、帶ヲ約シ
 一袋ヲ挿シ、烟具等ヲ納ム、足袋草履等ノ製、異ナラズ、
 貴人ハ帽、傘、扇ヲ用ユ、賤人ハ露頭徒跣スル者アリ、婦
 人ハ帶ヲ用キズ、二百年前ハ、頭髮ヲ剃セズ、今ハ頂髮
 ヲ剃シ、外髮一圍ヲ留メ、頂上ニ蟠髻ヲ縮シ、油ヲ用平
 沐理ス、貴人ハ鬚髯ヲ長シ、賤民ハ禁ズ、婦人ハ髮ヲ剃
 セズ、髻少シ前頂ニ在リ、簪ハ髻ニ挿ム、男ハ数本、女ハ

尊卑ノ分嚴ニ
 シテ貴族ノ少年
 ハ太郎ヲ呼ビ松
 ナド呼ビ次郎
 ナリ松クワナド呼
 フカハカレシ略
 名ニト云フ
 共ニ尊稱ナリ大
 島邊ノ人名ハ
 内地ノ人名兼
 如シ中樂ト云
 ス

一本、貴人ハ金銀、賤民ハ銅鉛、真鍮等ナリ、元服前ハ長
 簪ヲ用キ、後ハ短簪ヲ用ユ、婦人ノ簪ニ、飾ナシ、國人ニ
 名アリ、姓ナシ、名ノ數、僅ニ三四十、故ニ同名ノ者多シ、
 然レ氏、父子ハ同名ヲ得ズ、祖孫ハ関セズ、其名字ハ、太
 郎、次郎、思次郎、思五郎、真三郎、或松、鶴、龜等ノ稱ヲ用ユ、
 官吏ハ、別ニ漢字ノ姓名アレ氏、多クハ某地何官ト稱
 ス、久米村、閩人ノ裔、漢字ノ姓名アレ氏、別ニ琉球名ヲ
 常用ス、宴樂ハ、内地ノ猿樂、謡曲、雜子、義太夫等ノ俗曲、
 行ハレ、一般ニ、三絃ヲ弄ス、明清ノ舞樂、俗曲モアリ、又
 自國ノ古事ヲ演劇ニス、樂工、伶童ハ、貴人ノ子弟之ヲ
 習フ者モ多シ、樂器ハ、三絃、胡弓、琵琶、笛、小鑼、喇叭、鼓等

ナリ、又烟火競渡ノ戲アリ、碁象棋、行ハレ、宴會ニ拇戰
 杯アリ、永祿ノ頃、琉球ヨリ、蛇皮ヲ以テ張リタル、二絃
 ス、即チ今ノ内地
 ノ三絃ナリト云

琉球新誌卷下終

琉球新誌跋

琉球開闢ノ始祖男女二神ノ名ヲ阿摩美姑ト云フ、一
 書ニ、二神ノ名ヲ阿摩美久シ之禰利久キトス、初メ、大島最
 北ノ山ニ降り、史記及ヒ地理大國土ヲ求メテ、今ノ沖
 繩島ニ到リ、地ヲ開キ、米粟ヲ播ク、其長男ハ、天孫氏ト
 稱シ、長女ハ天神ト為リ、次女ハ海神ト為ル、云々、案ズ
 ルニ、我神代ノ二尊、八大洲ヲ生メル後、更ニ六島ヲ生
 ム、中ニ大島アリ、先哲ノ論、其所在ヲ詳ニセズ、今琉球
 ノ大島ヲ覽ルニ、佐渡隱岐ニ比スレバ、更ニ大ナリ、蓋
 シ是ヲ謂フ欤、素蓋鳥尊ハ新羅ニ降り、瓊々杵尊ハ日
 向ニ降ル、神代開闢ノ跡、皆西海ニ偏スレバ、彼ノ大島

ヲ指ス、必シモ牽強ト云フベカラズ、蓋シ阿摩美姑ハ
 天孫氏ノ字訓ニシテ、天御子ナリ、之禰利久ハ或ハ姫
 御子ノ轉歟、瓊々杵尊以下ヲ天孫ト稱シ、尊ノ皇子、火
 照尊ヲ薩摩隼人ノ祖トス、隼ハ鷲鳥ノ名ニシテ、古言
 ニ又猛勇ヲ波夜トモ云ヘバ、因テ名トス、古史ニ琉球
 人ノ獍惡ナルヲ説キ、且薩人琉人ノ土音、今尚同ジケ
 レバ、人種言語ノ部ヲ見ヨ皆隼人ト、同人種ナルヲ知ルベシ、因
 テ考フルニ、火照尊、薩摩ヨリ、漸ク南海諸島ヲ開キ、隼
 人人種ヲ生殖シ、而シテ天孫ノ皇族ナレバ、即チ阿摩
 美姑ト稱セシナルベシ、且其初メ、大島最北ノ山ニ渡
 リ、次ニ沖繩ニ到ルガ如キ、尤内地ヨリ渡ルノ痕跡ヲ

見ルニ足リ、又米粟ヲ播クハ、瑞穗國ノ種ヲ傳フル者
 ナルベシ、火照尊ノ皇弟、彦火々出見尊、海宮ニ入り、豊
 玉姫ヲ娶リ、居ルヲ三年ノ後、豊玉姫ハ、妹玉依姫ト、風
 波ヲ渡テ、海濱ニ到リ、産スル時、龍ト化シテ去リ、玉依
 姫ハ留テ還ヘラス、是レ海宮ヲ琉球トシ、長女ノ天神
 ト為ルヲ豊玉姫トシ、次女ノ海神ト為ルヲ玉依姫ノ
 去テ還ヘラザルニ考フレバ、共ニ火照尊ノ女トシテ、
 正ニ相合ハン、其叔姪相婚スルハ、上古ノ常ナリ、而シ
 テ彦火々出見尊以後、海宮ノ往來絶エタリト見ユ、大
 隅ノ甕島社ハ、尊ノ靈ヲ祀ル、其遊漁ノ故跡ハ、今ノ甕
 島ノ灣ナルベシ、又沖繩島ノ人、自ラ屋其惹島ト稱ス、

是レ沖ノ島ニテ、古ヘ洋中ノ島ノ意ニテ稱呼シ、後ハ
ヲナハニ訛セルナルベシ、琉球人著ハセル中山世譜
ニ、舜天姓源、號尊敦、父鎮西八郎、為朝公、母大里按司妹、
南宋乾道元年乙酉、為朝至國、生一子而返、其子名尊敦、
長為浦添按司、後國人推戴為君、是舜天也、云々、案スル
ニ、保元物語ニ、二條帝永萬元年、為朝鬼島ニ入ルトス、
即チ乾道元年ナリ、或云嘉應二年、為朝伊豆ノ大島ニ
死スル時、季子大島二郎、為家年五歲、其母抱テ逃レ、琉
球ニ入ル、是レ即チ舜天ナリト、蓋シ嘉應二年五歲ノ
文、舜天文治三年即位、年二十二ノ文ト、適ニ相符合ス
レバ、果シテ一人ナレト、其孰カ是非ヲ詳ニセズ、又保

元物語ニ、島人ノ衣網ノ如シ、太キ葦多ケレバ葦島ト
名ヅク、伊豆ノ大島ニ還ヘルニ及ンデ、絹百匹ヲ納レ
シム、云々、蓋シ、琉球ノ地、所在ニ竹多シ、葦ハ竹ノ一種
ヲ誤レルニテ、衣ハ芭蕉布ナラン、又此時為朝既ニ、八
丈ヲ略取スレバ、八丈ヲ除テ此辺海ニ、毎歲絹百匹ヲ
納ムベキ島ハ、琉球ノ外ニ有ルヲ見ズ、又國人為朝ヲ、
日本人皇後裔大里按司朝公ト稱ス、為朝ノ外人皇後
裔ノ人、此島ニ入ル者、恐ラクハ無カラン、大里按司ト
アレバ、逃レテ此島ニ終ル者、坎且舜天始メテ伊呂波
ヲ制スト云ヘバ、邦人ノ裔ナルヲ論ヲ待タズ、又今王
府第一ノ寶劍ヲ、重金丸ト名ヅク、是レ蓋シ、為朝ノ遺

物ニシテ、源家ノ寶刀タリシ者ナルモ知ルベカラズ、
以上鄙考ヲ録シテ以テ、此篇末ノ跋ニ代フト云、
明治癸酉六月

平文彦 記

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

